

平成 28 年 7 月 18 日
(公財) 日本体操協会
審判委員会
委員長 竹内 輝明

審判委員会からのお知らせ

リオデジャネイロ・オリンピック代表選手が決定し本番への最終調整に入りました。皆様と共に選手の活躍を期待したいと存じます。

審判委員会では国際体操連盟(FIG)の情報を元に第 32 回東京オリンピック適用となる 2017 年版採点規則(日本語版)の発行に向けてスタートしています。また、FIG は 7 月上旬に各種別(体操男女、新体操、トランポリン)の第 14 期大陸間国際審判講習会(Intercontinental Judges Course)の開催日程を発表しました。いずれも 2016 年 12 月から 2017 年 1 月にかけて実施されます。アジア地区国際審判講習会についても日本で開催できるよう FIG にリクエストしています。これらの状況から 1 種審判義務研修会を下記とおり計画しました。万障お繰り合わせのうえ参加いただきますようお願い申し上げます。

◇ 体操男子

西日本開催

期 日：平成 29 年 1 月 8 日(日)～1 月 9 日(月)

会 場：甲南大学 岡本キャンパス(兵庫県神戸市灘区)

東日本開催

期 日：平成 29 年 1 月 14 日(土)～1 月 15 日(日)

会 場：立教大学 池袋キャンパス(東京都豊島区)

◇ 体操女子

東日本開催

期 日：平成 29 年 1 月 21 日(土)～1 月 22 日(日)

会 場：日本体育大学 世田谷キャンパス(東京都世田谷区)

西日本開催

期 日：平成 29 年 1 月 28 日(土)～1 月 29 日(日)

会 場：武庫川女子大学 中央キャンパス(兵庫県西宮市)

◇ 新体操女子

期 日：平成 29 年 2 月 3 日(金)～2 月 5 日(日)

会 場：町田市民ホール(東京都町田市)

◇ トランポリン

期 日：平成 29 年 2 月 26 日(日)

会 場：国立スポーツ科学センター(JISS 東京都北区)

また、平成 29 年度より以前から通知しておりました本協会 1 種公認審判員の 카테고리制の導入及び本協会主催日本代表選手選考競技会に出場する監督・コーチの 1 種審判義務研修会受講が適用されます。該当する監督、コーチの皆様は、本研修会を受講されるようお願いいたします。

◇ 1 種審判 카테고리制について

카테고リーの資格内容と競技会

- 카테고리認定試験の結果及び審判実務経験により 1 種審判員を 카테고리 I、II、III に区分する。
- 카테고리制度を導入する種別は、体操男女、新体操女子、トランポリンとする。
- 新体操女子は、大幅な規則の改正が予想されるため 카테고리制の導入を平成 30 年度 4 月からとする。
- 카테고리の区分による競技会での実務区分は下記の通りに制限する。

카테고リー区分と審判実務競技会

資格	審判実務競技会		카테고リー
1 種	全日本選手権 代表決定（選考）競技会	D 審判(体操・新体操) 主審(トランポリン)	I
		E 審判	I II III
	代表決定（選考）競技会以外の全国大会	D 審判(体操・新体操) 主審(トランポリン)	I II
		E 審判	I II III

代表決定（選考）競技会以外の全国大会は以下の大会を示す

全日本選手権の予選競技会

- 全日本学生選手権（体操男女、新体操、トランポリン）
- 全日本ジュニア選手権（体操男女 1 部、新体操、トランポリン）
- 全日本シニア選手権（体操男女 1 部）
- 全日本新体操クラブ選手権
- 全日本新体操ユースチャンピオンシップ
- 全日本新体操社会人選手権

全日本団体選手権（体操男女）

- 国民体育大会
- 全日本新体操団体選手権大会
- 全国高等学校総合体育大会
- 全国高等学校選抜大会
- 全国中学校総合体育大会（女子体操、新体操）
- 全日本トランポリン年齢別競技選手権

● 資格有効期間

- 카테고리有効期間は最大 4 年間とし、規則改正時にリセットされる
- 카테고리試験は、1 種審判義務研修会および新規認定講習会で実施する
- 平成 28 年度は 1 種審判義務研修会のみで、新規認定講習会は開催しない
- 平成 29 年度より新規認定講習会兼 카테고리試験を毎年実施する
- 新規に認定される 1 種審判員は 카테고리 III とする

- その他
 - カテゴリー制度は、1種審判員のみ適用し2種3種審判員には適用しない
 - カテゴリー試験は、実技採点試験のみとし理論試験は実施しない（新体操女子は別途検討）
 - カテゴリー試験は、国際審判員試験に準じて実施する

◇ 全日本選手権（代表選手選考会）に出場する監督・コーチの1種審判義務研修会受講について

- 目的

1種審判以外のコーチも、2017年版規則が国内で最初に伝達される1種審判義務研修会を受講できることとする。コーチと審判員が迅速に新ルール情報を入手し、お互いに共通理解を図りながら、2020年東京オリンピックの選手強化に活用する
- 方法

2017年以降、日本代表選手を選考（決定）する競技会において、アリーナに入場するコーチは、1種審判義務研修会を受講する

 - コーチは3種審判員以上の資格を有し、研修会を受講する
 - 受講者には受講証を発行する
 - 特別な場合は、特例として検討し選手の参加に影響しないよう配慮する
- コーチの名称と役割確認
 - コーチ：

採点規則3章に記載されている権利を有し、下記の対応が認められる者

各種申請
競技中の選手の補佐
Dスコアの質問等
 - エキストラ・コーチ：

通常の補助、器械の調整、選手の補佐をする学生や選手、外国人コーチ等をさし、研修会の受講証を必要としない

コーチに認められた権利（各種申請、Dスコアの質問）は有さない
- 適用競技会

適用競技会は、下記の通り日本代表選考（決定）競技会のみとする

 - 全日本個人総合選手権大会
 - 全日本種目別選手権大会（種目別トライアルは含まない）
 - NHK杯（体操男女）
 - 代表決定競技会（新体操・トランポリン）

その他の競技会（全日本インカレ、国民体育大会など）では適用しない